Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 18第45号
2019年（平成31年） 3月1日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電話 （03）3534-7411（代）
FAX （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

## ■ 概況

2/14~2/20のNYMEX・WTIは、54.41～56.92ドルの範囲で堅調に推移した。

2月21日は、同日発表のIEA月報で、前週末の米国原油在庫が前週比370万バレル増と市場予想（310万バレル増）を大きく上回ったこと、最新週の米国産油量が1200万b/dの記録的水準に達したことから、7営業日ぶりに反落した。ただ、製品在庫はガソリン・中間留分とも取り崩しだったこと、依然としてOPECプラスの協調減産効果への期待もあり、下げ幅は限定的だった。この日から繰り上がった4月限終値は前日比0.20ドル安の56.96ドル。

週末22日は、米中貿易協議の先行きに期待感が出てきたことから反発し、昨年11月12日以来約3ヶ月ぶりの高値を記録した。ベーカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数は853基（前週比4基減）だった。4月限終値は前日比0.30ドル高の57.26ドル。

週明け25日は、原油価格が上昇しすぎているとしてOPEC減産を牽制するトランプ大統領のツイッター発言で大幅反落した。先日来の高値への利益確定売りもあった。4月限終値は前週末比1.78ドル安の55.48ドル。

26日は、前日のトランプ大統領のツイッターや翌日発表の米国原油在庫の前週比積み増し観測の一方で、減産は年末まで実施される公算が高いとのOPEC筋発言の報道、ドル高・ユーロ安による原油先物の割安感から、わずかに反発した。4月限終値は前日比0.02ドル高の55.50ドル。

27日は、EIA在庫週報の市場予想に反する大幅取り崩し（前週比860万バレル減）報告等需給の引き締まり感から、大幅続伸した。4月限終値は前日比1.44ドル高の56.94ドル。

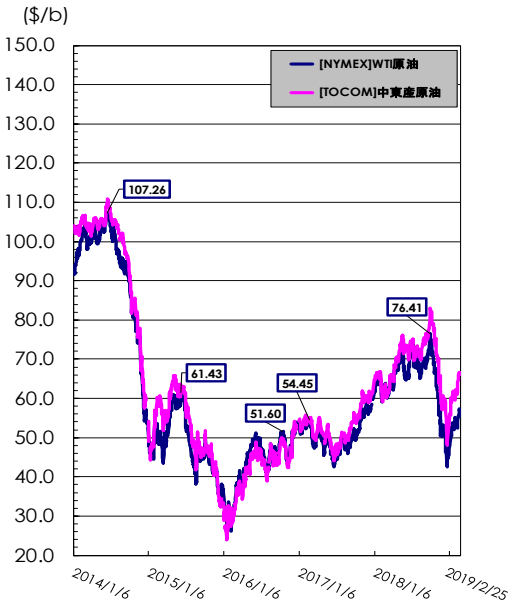
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（4月渡し）は2月14日～20日の間64.80～66.70ドルの範囲で推移した。2月21日67.30ドル、22日67.20ドル、25日67.00ドル、26日64.70ドル、27日65.30ドルで推移した。

為替は2月14日～20日の間110.44～110.98円の範囲で推移した。2月21日110.70円、22日110.78円、25日110.78円、26日111.01円、27日110.59円で推移した。

財務省が27日発表した貿易統計（速報・旬間）によると、2月上旬の原油輸入平均CIF価格は、42,876円/klで、前旬比715円高、ドル建ては62.31ドルで前旬比0.60ドル高。為替レートは1ドル/109.40円だった。

そのような中で、2月25日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.0円の値上がり、軽油は同0.9円の値上がり、灯油は同8円の値上がり（18㍑ベース）だった。ガソリン、軽油、灯油ともに2週連続の値上がりだった。この週（2月第4週）の原油コストは値上がりで、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに全社1.0円の値上げとなった。

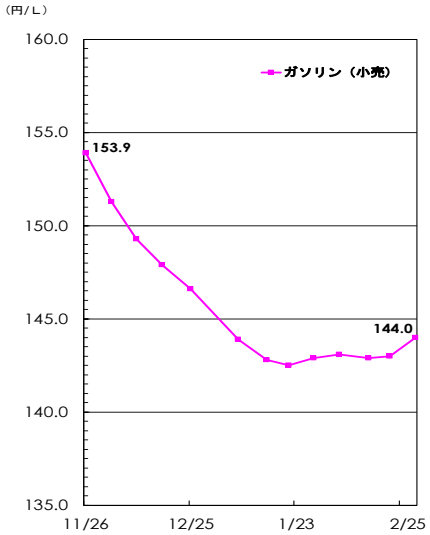
| 原油 | | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 需給 | 原油処理量 | （千kl） | 2/17 ～ 2/23 | 3,531 | ▼ -51 | ▼ － |
| 需給 | トッパー稼働率 | （%） | 〃 | 90.2 | ▼ -1.3 | ▼ － |
| 需給 | 原油在庫量 | （千kl） | 2/23 | 12,050 | ▼ -274 | ▲ － |
| 価格 | 中東産原油(TOCOM) | （$/bbl） | 2/25 | 66.23 | ▲ 0.10 | ▲ 2.6 |
| 価格 | WTI原油（NYMEX） | （$/bbl） | 2/25 | 55.48 | ▼ -0.61 | ▼ -8.4 |
| 価格 | 原油ＣＩＦ単価 | （$/bbl） | 2月上旬 | 62.31 | ▲ 0.60 | ▼ -5.96 |
| 価格 | ①原油CIF単価 | （¥/kl） | 〃 | 42,876 | ▲ 715 | ▼ -4,069 |
| 価格 | ②ドル換算レート | （¥/$） | 〃 | 109.40 | ▼ -0.77 | ▼ -0.07 |
| 価格 | 外国為替ＴＴＳレート | （¥/$） | 2/25 | 111.78 | ▼ -0.24 | ▼ -3.86 |



（単位：千kl、円/㌔）

| ガソリン | | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 需給 | 生産 | | 2/17 ～ 2/23 | 971 | ▼ -68 | ▼ – |
| | 輸入 | | 〃 | n.a. | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | | 〃 | 973 | ▲ 146 | ▲ – |
| | 輸出 | | 〃 | 105 | ▼ -75 | ▼ – |
| | 在庫 | | 2/23 | 1,631 | ▼ -106 | ▼ – |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] | (RIM) | 2/19 ～ 2/25 | 58.1 | ▲ 1.2 | ➡ 0.0 |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 2/19 ～ 2/25 | 55.9 | ▲ 0.8 | ▲ 0.1 |
| | | (TOCOM/中部) | 2/25 | 58.5 | ▲ 0.7 | ▲ 2.0 |
| | 小売 [週動向] | (資エ庁公表) | 2/25 | 144.0 | ▲ 1.0 | ▼ -0.4 |

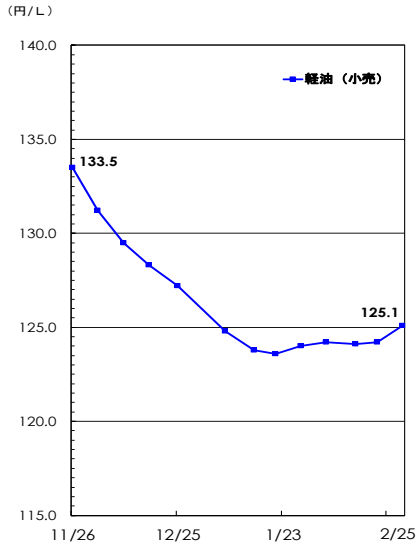
※業転、先物価格は税抜き価格




（単位：千kl、円/㌔）

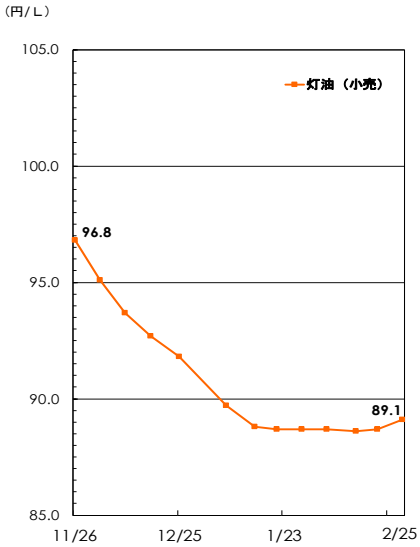
| 軽油 | | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 需給 | 生産 | | 2/17 ～ 2/23 | 805 | ▼ -12 | ▼ – |
| | 輸入 | | 〃 | n.a. | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | | 〃 | 699 | ▲ 104 | ▼ – |
| | 輸出 | | 〃 | 246 | ▲ 95 | ▲ – |
| | 在庫 | | 2/23 | 1,480 | ▼ -140 | ▲ – |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] | (RIM) | 2/19 ～ 2/25 | 61.6 | ▲ 1.2 | ▲ 2.2 |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 2/19 ～ 2/25 | 63.5 | ▲ 1.1 | ▲ 2.7 |
| | | (TOCOM/中部) | 2/25 | – | – | – |
| | 小売 [週動向] | (資エ庁公表) | 2/25 | 125.1 | ▲ 0.9 | ▲ 2.4 |

※業転、先物価格は税抜き価格




（単位：千kl、円/㌔）

| 灯油 | | | 今週 | | 前週比 | 前年比 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 需給 | 生産 | | 2/17 ～ 2/23 | 306 | ▼ -120 | ▼ – |
| | 輸入 | | 〃 | n.a. | n.a. | n.a. |
| | 出荷 | | 〃 | 500 | ▲ 7 | ▼ – |
| | 輸出 | | 〃 | 0 | ➡ 0 | ➡ – |
| | 在庫 | | 2/23 | 1,539 | ▼ -194 | ▲ – |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] | (RIM) | 2/19 ～ 2/25 | 61.2 | ▲ 1.2 | ▼ -3.3 |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 2/19 ～ 2/25 | 61.3 | ▲ 1.9 | ▼ -0.4 |
| | | (TOCOM/中部) | 2/25 | 59.0 | ▼ -1.5 | ▼ -1.0 |
| | 小売 [週動向] | (資エ庁公表) | 2/25 | 89.1 | ▲ 0.4 | ▲ 1.0 |



# ■ 関連情報

## 1　海外/原油

2月27日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報が、市場予想（前週比280万バレル増）に反して同860万バレル減と6週ぶりの大幅取り崩しとなったこと、米国の石油純輸入量が前週比140万b/d減の260万b/dと記録的低水準となったこと、また、サウジのファリハ・エネルギー相がトランプ大統領のツイートに対しOPECは冷静であると反論したことから、需給の引き締まり感が再認識され、大幅続伸した。4月限終値は前日比1.44ドル高の56.94ドル。5月限の終値は前日比1.40ドル高の57.37ドルだった。

EIAによると、2月25日時点のガソリンの小売価格は、前週比7.3セント値上がりの1ガロン2.390ドル（70.5円/㍑）、ディーゼルは同4.2セント値上がりの3.048ドル（89.9円/㍑）となった。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは2週連続の値上がりだった。

## 2　国内/製品需給　（1）出荷

石連週報によれば、平成31年2月17日～2月23日に休止したトッパー能力は10.9万バレル/日で、前週に対して1.8万バレル/日減少した（全処理能力は351.9万バレル/日）。原油処理量は353.1万klと、前週に比べ5.1万kl減少。前年に対しては11.2万klの減少。トッパー稼働率は90.2%と前週に対して1.3ポイントの減少、前年に対しては2.8ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/6.5%減、ジェット/80.9%増、灯油/28.1%減、軽油/1.5%減、A重油/7.8%減、C重油/1.9%増。今週のC重油の輸入は1.5万kl（前週比1.3万kl増）。軽油の輸出は24.6万kl（前週比9.5万kl増）。

出荷（輸入分を除く）は、前週比ではジェット、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、ジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は97.3万 kl（対前週17.6%増）と前週比で2週振りで増加となり、8週連続で100万klを下回った。ジェット3.1万kl（対前週59.4%減）、灯油50.0万kl（対前週1.3%増）、軽油69.9万kl（対前週17.5%増）、A重油30.7万kl（対前週15.5%増）、C重油24.1万kl（対前週13.6%減）。

（単位：千KL）

| | 今週 (2/17 ~ 2/23) | 前週 (2/10 ~ 2/16) | 前週比 | |
|---|---|---|---|---|
| ガソリン | 973 | 827 | ▲ 146 | (18%) |
| ジェット燃料 | 31 | 77 | ▼ -46 | (-60%) |
| 灯油 | 500 | 493 | ▲ 7 | (1%) |
| 軽油 | 699 | 595 | ▲ 104 | (17%) |
| A重油 | 307 | 266 | ▲ 41 | (15%) |
| C重油 | 241 | 279 | ▼ -38 | (-14%) |
| 合　計 | 2,751 | 2,537 | ▲ 214 | (8%) |

※今週出荷量＝（前週末在庫＋今週生産＋今週輸入）－（今週輸出＋今週末在庫）

## 2　国内/製品需給　（2）在庫

2月23日時点の在庫は、ジェットで積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはガソリンで取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。

ガソリンは163.1万kl、前週差10.6万kl減。前年に対しては1.6万kl少ない。

灯油は153.9万kl、前週差19.4万kl減。前年に対しては34.0万kl多い。

軽油は148.0万kl、前週差14.0万kl減。前年に対しては28.9万kl多い。

A重油は78.7万kl、前週差3.1万kl減。前年に対しては10.9万kl多い。

C重油は195.0万kl、前週差2.9万kl減。前年に対しては6.6万kl多い。

（単位：千KL）

| | 今週 (2/23) | 前週 (2/16) | 前週比 | |
|---|---|---|---|---|
| ガソリン | 1,631 | 1,737 | ▼ -106 | (-6%) |
| ジェット燃料 | 837 | 720 | ▲ 117 | (16%) |
| 灯油 | 1,539 | 1,733 | ▼ -194 | (-11%) |
| 軽油 | 1,480 | 1,620 | ▼ -140 | (-9%) |
| A重油 | 787 | 818 | ▼ -31 | (-4%) |
| C重油 | 1,950 | 1,979 | ▼ -29 | (-1%) |
| 合　計 | 8,224 | 8,607 | ▼ -383 | (-4.4%) |

## 3　国内/製品卸売価格　（1）元売会社 仕切価格改定動向

2月19日から25日の原油価格は、前週比で大きく値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは大きく値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、2月19日～25日の間、ガソリン111～112円台で大きく値上がり後やや軟化、軽油60～62円台で大きく値上がり後やや軟化、灯油60～61円台で大きく値上がり後やや軟化して推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン113円台で値上がり後横ばい、軽油63円台で横ばい、灯油60～61円台で大きく値上がり後横ばいで推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン108～110円台で出入り激しく値上がり、軽油63円台で値下がり、灯油60～61円台で大きく値上がり後軟化して推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社1.0円の値上げとなった。

## 3　国内/製品卸売価格　（2）業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、全油種・全取引で、前週平均と比べ値上がりした。

3月第1週（2/28～3/6）適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格（2/19～2/25千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値）は、前週比で、ガソリンは1.2円の値上がり、灯油も1.2円の値上がり、軽油も1.2円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは1.6円の値上がり、灯油も1.4円の値上がり、軽油も1.0円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.8円の値上がり、灯油も1.9円の値上がり、軽油も1.1円の値上がりだった。

3月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社1.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

（RIM）　（単位：円/㍑）

| [陸上ローリー 4地区平均] | | 今週　(2/19 ~ 2/25) | 前週　(2/12 ~ 2/18) | 前週比 |
|---|---|---|---|---|
| スポット価格 | レギュラー | 58.1 | 56.9 | ▲ 1.2 |
| | 灯油 | 61.2 | 60.0 | ▲ 1.2 |
| | 軽油 | 61.6 | 60.4 | ▲ 1.2 |

（TOCOM）　（単位：円/㍑）

| [期近物/終値] 〔平均〕 | | 今週　(2/19 ~ 2/25) | 前週　(2/12 ~ 2/18) | 前週比 |
|---|---|---|---|---|
| 先物価格 | レギュラー | 55.9 | 55.1 | ▲ 0.8 |
| | 灯油 | 61.3 | 59.4 | ▲ 1.9 |
| | 軽油 | 63.5 | 62.4 | ▲ 1.1 |

※上記価格は税抜き価格

参考値　（2/19～2/25実績値）　（単位：円/㍑）

| 油種 | 現物 | 先物 | 平均 |
|---|---|---|---|
| ガソリン | ▲ 1.2 | ▲ 0.8 | ▲ 1.0 |
| 灯油 | ▲ 1.2 | ▲ 1.9 | ▲ 1.6 |
| 軽油 | ▲ 1.2 | ▲ 1.1 | ▲ 1.2 |
| A重油 | ▲ 1.6 | | |

（出所）現物：RIM社陸上ローリー4地区平均価格
（千葉・川崎・中京・阪神）
先物：TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

## 4　国内/製品小売価格

2月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.0円高の144.0円、軽油は同0.9円高の125.1円、灯油は18㍑ベースで同8円高の1,604円（1㍑ベースでは同0.4円高の89.1円）だった。ガソリン・軽油・灯油ともに2週連続の値上がりだった。都道府県別には、値上がりが40都道府県、横ばいが3県、値下がりが4県だった。全国最安値は徳島県の137.6円（前週比0.7円高）、次が埼玉県の138.6円（同1.2円高）、最高値は長崎県の155.2円（同0.2円高）であった。最も値上がりしたのは2.2円高の栃木県（142.6円）、横ばいは高知県・香川県・福岡県の3県、最も値下がりしたのは0.3円安の岩手県（140.0円）だった。

先週の原油コストは大きく値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに2.0～2.5円の値上げに分かれた。

今週は、原油価格が大きく値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは大きく値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに1.0円の値上げとなった。次週（3月4日）のガソリン・灯油の小売価格は値上がりが予想される。

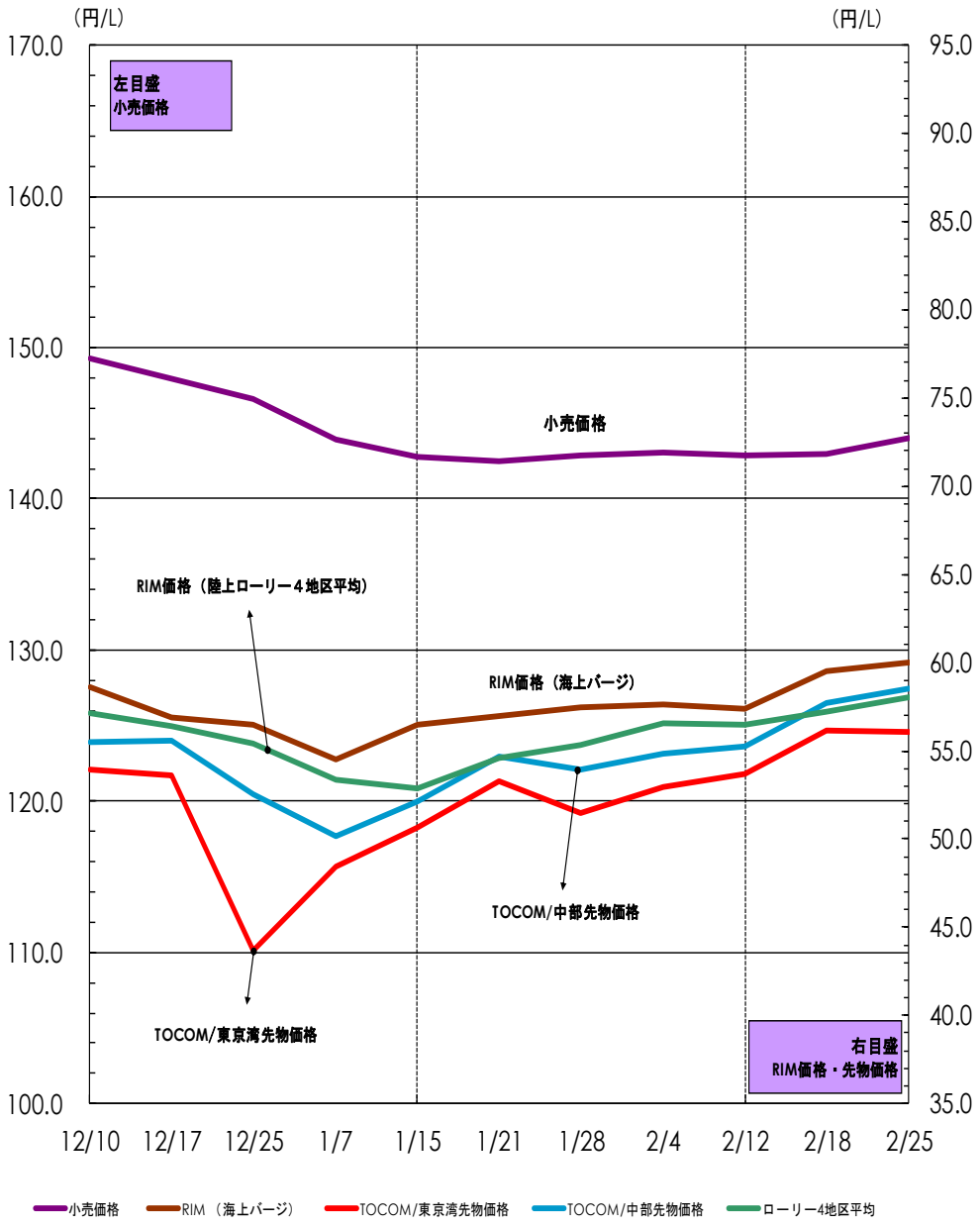
（単位：円/㍑）

| （資エ庁公表）[週動向] | | 今週　(2/25) | 前週　(2/18) | 前週比 | 直近高値 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 小売価格 | レギュラー | 144.0 | 143.0 | ▲ 1.0 | 08/8/4 | 185.1 |
| | 灯油 | 89.1 | 88.7 | ▲ 0.4 | 08/8/11 | 132.1 |
| | 軽油 | 125.1 | 124.2 | ▲ 0.9 | 08/8/4 | 167.4 |

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）
07年4月以降 2,000店舗を対象。
直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2018/12/10　～　2019/2/25)




(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）にも掲載しています。
次回（2018第46号）の公表は、3/8（金）14:00 です。

「セルフSS出店状況」（平成30年9月末現在）は、12月19日（水）14：00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

**①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉**
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

**②【原油・先物価格】〈 WTI原油、中東産原油 〉**
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange：TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。　※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

**③【国内製品・元売仕切価格】**
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。
元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

**④【国内製品・業転価格】〈 RIM業転 〉**
国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用（いわゆる4RIM価格とは異なる）。

**⑤【国内製品・先物価格】〈 TOCOM〉**
TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

**⑥【国内製品・小売価格】〈 週動向 調査〉**
約2, 000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。